



under-sakura



spring-mindscape

sakura-sea



〔兵庫編〕

KOBE、 水平線の見える街で ブライアン・ジッチ・ローレンツ 画家

イギリスの港町リバプールのザ・ビートルズを生んだこの地が私の生まれ故郷だ。家は港のすぐ近くで、毎日海を見て育った。四歳の頃、船体に「YOKOHAMA」と書かれた船を見て以来、日本に憧れ、日本の切手を集めては、いつか行きたいと遠い国を想った。四十二歳にしてようやく少年の日の夢が叶い、妻の故郷の信州に移り住んだ。北アルプスの麓その村は、山が美しく、空気は澄みわたり、夜空は星が降るようだった。この地の自然を愛した東山魁夷という素晴らしい日本画家を知ることでもできた。ただ四方を山に囲まれた信州には、海がない。「水平線の見える街で暮らしたい！」という想いは、次第に抑えがたくなった。

神戸を選んだのは、港町という理由だが、実はそれ以外はほとんど何も知らないまま、衝動的に移住を決めた。でも実際に住んでみて、自分でも賢い決断だったことはすぐにわかった。

第一に神戸は、外国人には非常に住みやすい。港町としての歴史が長いせいか、みんな外国人慣れしているから、自然に街にとけ込める。食べ物もとても美味しい。海が近いから、ついさっきまでダンスをしていたような新鮮な魚が豊富なのも嬉しい。どこへでも「歩

いていける」ことも大きな魅力。家から二十分も歩けば海（ハーバーランド）に着き、逆に向かえば同じく二十分で山があり、滝があり、温泉もある。街なかに行くなら北野の異人館、日本庭園が素晴らしい相楽園。特に私の春のお奨めは桜が満開の会下山公園——歩いて絵を描きに行ける大好きな場所を挙げたらキリがないほどだ。そして何より神戸には「水平線」がある。山に囲まれた信州と異なり、海に臨む神戸は「空」が大きいのだ。気持ちがあんまり自由に開放的になる。海の香りに包まれ波の音を聴き砂浜を歩く。須磨や舞子の浜に座り、沖を眺めれば、故郷のリバプールの身近に感じると向こうです」と答えるようになった。

初めて神戸に来た日に乗ったタクシーの運転手が、こんなことを言っていた。「神戸には一つ問題がある。一度来たら帰りたくなくなるんや」と。彼の言うとおりだった。水平線が見え、海も山も近い神戸で、私もいつまでも美しい自然や風景を描き続けたい。躍

Brian Zichi Lorentz 画家

1952年英国リバプール生まれ。彫刻家を父に、大学では古典的な水彩技法とテキスタイルデザインを専攻。ロンドンを拠点に欧州で創作活動を展開、ヴィクトリア&アルバート美術館などで個展、エジンバラ公爵賞など受賞。1994年来日、2002年から神戸在住。アクリル絵の具を多用し、なめらかさと質感を兼ね備えた画風が特徴。日本画に魅せられて墨絵も描く。

<http://www.zichiart.com/>

<http://homepage.mac.com/zichi/custom/japanese/>

